

令和2年度 兵庫県上郡高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「愛と誠」を根幹に据え、創立110年を超える歴史の中で築き上げられた良さ伝統と地域の支援を継承し、安全・安心で学びたいことを学べる魅力溢れる学校づくりを推進する。そのため、教科学習面の充実、特別活動（部活動、地域貢献、ボランティア活動等）面をさらに活性化させ、質の高い教育をすべての生徒に提供することで、持続可能な社会を創造する「未来を語り まちを支える人づくり」に取り組む。
重点目標	1 教科指導の充実 2 生徒指導の充実 3 進路指導の充実と学校の特色化

3 総合的な自己評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点目標1は、やや改善は見られるものの、基礎学力の定着はなかなか難しい。生徒アンケートによると、家庭学習の習慣がなく、本をほとんど読まない者がかなりの割合を占める。自己肯定感が低く、学習意欲も少ない生徒について、探究活動への積極的な取り組みや対話的な学習活動を取り入れるなど、「わかる授業・魅力ある授業」によって学習意欲を高め、個々の学力向上と授業力向上を図りたい。 重点目標2については、毎年SNSによる人間関係のトラブルが発生している。また、保護者の教育方針や考え方も多様であり、生徒間の人間関係づくりや保護者、クラス運営などへ対応するため、生徒指導部と学年、教育相談担当などの部署間の連携を強化しながらチーム学校として、情報共有と速やかな対応により、個々の案件を未然、事前に防止できるよう組織的に対応していく。また、各種学校行事やホーム・ルーム活動を通じて、生徒の内面理解に努めながら、自己有用感を持たせ規範意識を一層高めていきたい。 重点目標3の進路指導の充実については、進路指導部を中心に、各学年・各部と連携し、取り組むことができた。今年度、3学年は、A0・推薦入試で、国立大学への合格者が2名にとどまったが、受験者が大幅に増加したことは大きな前進である。また、10月後半に実施した2年生全員のインターンシップは、個々の職業観が育んだといえる。これらを進学指導に活かせるように校内の進路指導体制の強化を目指し、再構築を図っていく。 学校の特色化については、専門科は、施設・設備の新築、改修工事などを通じて、スマート農業など、新しい分野の学びに向けて職員員の意識改革を行っている。高大連携による健康科学類型は、多くの生徒が連携先の大学へ進学することとなり、連携校の指導が反映された結果となった。また、専門科の実習や普通科の社会人基礎Ⅲ、生徒会、各部活動など、年間を通じて、各種行事に積極的に参加する各を計画していたが、新型コロナウイルス感染症により、多くの取組みが中止となった。来年度は、感染症対策を取りながら可能な限り実施し、地域に貢献し、地域からの信頼を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 以上より、校内の施設の整備を進めながら、学力向上と学校の特色化を進め、生徒一人一人粘り強く指導を行い、教育効果を上げていく。 来年度は、上郡町や上郡町商工会との連携を深め、共通の課題を抱えた地方の町や大学と連携しながら、町の活性化を検討する実践的な学習活動や上郡町の魅力を情報発信する事業に取組み、本校の生徒も事業に参加する中で、ふるさと意識を醸成し、町を活性化するための取組を研究したり、発表したりするなど、地域を支える人材として生徒が成長していけるよう、さらに有効な教育活動を推進していく。
--	--

2 学校自己評価結果 (A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する D 一層努力を要する)

分野	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策
教科指導の充実	授業態度、家庭学習の習慣等、学習規律の確立		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化については、週末課題や朝の小テストを工夫し学習の指導を進めた。しかし、生徒アンケートから家庭学習にほとんど取り組まない者が、各学年で半数近くいる現状について何らかの工夫・改善が求められる。 全学年とも進路希望や実施に応じた補習を計画し、年間を通じて実施した。日々の予習をはじめ、定期考査直前しか復習をしない生徒に向けて、教科担当だけでなく、学習実態調査（日程表）の作成など、学年・担任による組織的な指導が必要である。 「わかる授業」と学力伸長のために、すべての教科担当者、生徒による授業アンケートを年1回実施した。 職員室前の長机・椅子・照明などを備えた学習スペースや選択教室では、教員への質問や個別の学習指導等への有効活用ができた。 教材の工夫や評価方法の見直しによって、生徒が授業に落ち着いて徐々に取り組むようになった。今後は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の視点から興味を高める授業内容・方法や、観点別評価方法など、さらなる改善を図る。 3学年の専門科の課題研究発表や普通科の健康科学類型・社会人基礎Ⅲの学習成果発表会を1、2年生に見学させた。次年度以降に取り組む内容を先輩から聞くことで、先の見通しや目標が明確になり、学ぶ意欲の向上に繋がった。 本年度から、成果発表会として、専門科の課題研究発表や普通科の学習成果発表会代表者によるプレゼンテーション、国立大学や公務員試験合格者による合格体験談を1、2年生全員に対して実施した。上郡高校全体の取組みや先輩の体験談を聞くことで、生徒の意識を高めることができた。 習熟度別・少人数指導を実施し、基礎・基本の定着に取り組むことができた。生徒の実態や教科の内容に応じて指導形態での工夫を行うことで一定の効果があった。 実践的な指導を高めるため、秋季の研究授業や公開授業を実施し、教科ごととの研修会を、学校の課題や取組、工夫などについて発表、討議などによる研修を行った。校内においては、上郡中学校と相互に授業見学などを行い、広い視点から授業の見直しを図った。また、カウンセリングマインド研修会、若手教員の研修会等を実施し、資質向上を図った。 本年度より、タブレット端末の導入に伴い、classi講習会・プロジェクター講習会・タブレット使用及びクラウドツール使用の講習会を実施した。一部の授業では、タブレット端末を用いた授業を展開しているが、来年度は、全教員が使用できるようにしていきたい。
	基礎・基本の定着と進路実現に向けた技能習得	B	
	「わかる授業」と生徒一人ひとりの学力の伸長	B	
	教員の資質向上としての実践的指導力の向上	B	
重点	生徒指導の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみなどの指導について、日々の登下校時の校門や通路での指導を実施することで、頭髮・服装・学校生活とも、注意をされる生徒の数が少なくなっており、3年間を通した指導の中で一定の成果を得た。しかし、一部の生徒については、指導の継続が必要であるため、今後も粘り強く続ける。 マスクの着用、電車内での会話等、登下校時のマナーについて、地域住民からの苦情が数件寄せられたため、通学列車指導や地域への巡回指導を実施した。 部活動の活性化のため、1学年の1学期を部活動全員加入としている。途中やめる生徒も多いため、未加入の生徒に声かけを行い加入を勧めた。 新型コロナウイルス感染症対策のため、部活動は、平日2時間、休日3時間の活動時間を遵守し、部活動における感染を防止した。 例年、生徒会は、校内外問わず数多くの行事に参加し、自主的・自立的に取り組んでいるが、本年度は、校外での活動がほとんどできなかった。来年度は、活動を再開し地域との連携を図っていく。 今年度は年2回のいじめアンケートを実施し、早期にいじめが発見できるように取り組んでいる。 様々な特性を持つ生徒に適切に対応するため、カウンセリングマインド研修会を年2回、専門分野の講師により実施した。これにより、生徒の持つ特性や、指導方法についての知識を得た。また、保護者の了解の上、個別の指導・支援計画を作成し、全職員に周知して統一した合理的配慮を行った。 キャンパスカウンセラーによる教育相談を有効に活用し、生徒への的確な助言や対応の一助となるなど効果があった。
	生徒に対する毅然とした態度と、生徒、保護者、地域からの信頼	B	
	いじめの未然防止、いじめ事案への対応	B	
目	生徒の内面理解を図る相談活動、支援の展開	B	
	進路指導の充実と学校の特色化	B	<ul style="list-style-type: none"> 模試の結果分析を行い、きめ細かな教科指導に反映させている。今年度の3学年の進路指導のプロセスを次の学年に引き継ぎ、進路実績を向上させていく。 2年生の社Ⅱで2学期に全生徒によるインターンシップ実施は、生徒のキャリア学習の効果あげている。来年度以降、生徒の希望を尊重しながら実習先の選定・調整をより丁寧に進めていく。 生徒・保護者の進路意識向上に向けて、ガイダンスの内容や来校する学校の種類などを工夫・改善を図っている。 類型の進学先の大半は看護・教育・福祉の3分野となった。 就農講座や農場見学等、専門家からの講義を受講させた。プロの知識・技能について、生徒の興味・関心・意欲を高めるなど教育効果があった。しかし、高校卒業、即就農にはつながっていない現状がある。今後も粘り強く指導していく。 専門科の課題研究は、個人による単年度の研究となっており、過去からの積み重ねが無く、探究活動として限界があり、研究を深め成果を得るために、グループで1つのテーマを継続して研究する方向に切り替えていく必要がある。 検定・資格については、ワープロ検定、トレース検定など多数の資格が取得できた。 農場施設・設備の充実に努め、専門教育の環境整備・デジタル化への対応を進めている。令和元年度の和牛舎の改修・ドローンを用いた写真測量に対応した高性能パソコン、3次元ソフトの導入に続き、令和2年度も鶏舎2棟の新築、温室の新築を進め、令和3年3月末に完成する。また、ダンブカーやパワードローブ、各学科への大型ディスプレイ（ビッグパッド）の最新機器を導入し、栽培飼育分野、土木分野ともに産業教育分野で最新の施設設備へと更新を進めているところである。令和3年2月1日には、上郡町との連携協定を締結し、特産品の開発等において地域と連携しながら、スペシャリストとしての技能習得を目指す。 課題研究では学科ごととの発表会に加えて、本年度から学科代表者による学習成果発表会を開催し、学びのレベルアップを目指す取組を始めた。
	「健康科学類型」の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> 健康科学類型については、1学年では、各学期末に各分野の導入として大学教員の講義を受講し、興味・関心を高めた。2学年では、「健康科学基礎」の授業で関西福祉大学の先生の指導を受けることで、各分野への進路意識を高めた。2学期の関西福祉大でのインターンシップでは、上級学校での学びを体験し、進路選択に大いに役立った。 3年生において、「健康科学探究」の授業では、各自課題を設定し、探究（研究）の結果を、学習成果発表会で報告した。夏休みの体験実習（5日間1単位）については、実習先の負担を配慮しつつ実施していく。健康科学類型について、高大連携の趣旨を再確認しながら来年度の計画を立てていく。 社会人基礎（総合的な探究の時間）は取組開始より10年目を迎えており、生徒の主体性を育む効果的なプログラムである。昨年度より、学年が主体となり運営している。総括を行い、上郡町との連携プロジェクトとして、町の魅力発展事業も含めたカリキュラムを再構築する。
	農業のスペシャリストとしての技能習得	B	
その他	危機管理	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、県民局主催の防災訓練（炊き出し訓練、応急手当、消火訓練、土嚢作りなど）を12月上旬に計画していたが、新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかったため、町と連携してJアラートによる訓練や防災避難訓練を実施し、生徒・職員の危機管理意識を高めた。 新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置し、随時感染症防止対策について協議を行い、職員室の分散、部活動における対応、換気、昼食マナー、学力保証、時間補充、購入備品等について対策を徹底した。 新型コロナウイルス感染症対策について、生徒、保護者、教職員が一丸となり、マスクの着用・毎日の検温・密を避ける等の感染症防止対策を徹底し、成果をあげた。
	環境整備	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が気持ちよく過ごせる環境を意識して、教員・生徒だけではなく、管理職や主幹教諭も積極的に廊下掃除などを行い、校内美化に努めた。 学年毎にクリーン作戦を実施し、学校周辺の美化活動にも積極的に取り組んだ。
	保護者・地域との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信「上高だより」「農場だより」、classyや斉メール、学年通信などの定期的な発行により、学校の情報を地域や保護者に発信した。JR上郡駅の駅舎入口に、大判の上高だよりや農場だよりを掲示するパネルを設置しているが、地域の方に上郡高校を広く知ってもらう機会となっている。 ホームページ更新を、随時行い、学校の様子をこまめに掲載するよう努めた。 文化祭・体育大会など学校行事について、地域住民に見てもらいたいことができなかった。PTA役員の文化祭模擬店やマラソン大会では炊き出しは中止となったが、進路面接や交通安全キャンペーンなど、可能な範囲で実施した。 上郡町商工まつり・白旗城まつりなど地域の各イベント等が中止となり、地域の方に、本校についての理解を深めてもらうことができなかった。 オープン・スクール期間に授業を公開したり、専門科の生徒が毎週火曜日栽培した野菜を販売する「火曜日」などで開かれた学校づくりに取り組んだ。
	労働環境	B	<ul style="list-style-type: none"> 月曜に実施している早く帰りマンデー（19:00退勤）と火曜のノー会議デー・ノー研修会デーはほぼ浸透している。決裁の簡略化や、職員個人に文書配布するための「レタケース」導入や、グループウェア活用による職員朝礼の削減など、業務改善推進委員会による効率化を進めている。 部活動顧問の一部と農業関係で実習の伴う職員、業務が集中している職員、教頭の勤務の適性化などが課題である。 管理職から、機会ある毎に年休・休暇等によるリフレッシュを呼びかけている。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> 技能習得については、評価がやや向上しているものの低学年では低い。引き続き、少人数授業やT T授業による基礎学力の向上に努めて欲しい。 家庭学習については、小・中学校を通じての継続的な習慣化が大事。生徒・保護者とも高学年になるほど評価が高い。進路や就職に対する日頃からの教職員の計画的な指導の成果と評価したい。 アンケートでは、コロナ禍でも授業に意欲をもって取り組んでいる様子がうかがえる。生徒一人一人が将来目指すべき目標を早い段階で設定することが大事である。 生徒が関心や興味を高める授業を展開し、何事にも積極的にチャレンジする生徒の育成、意欲の向上に引き続き努めて欲しい。 家庭学習・読書冊数とも全学年を通じて評価が低い。読書離れが顕著である。 3学年の学習成果発表会・習熟度別授業・少人数指導など「わかる授業」実現のための取り組みが成果を上げていることは高く評価できる。 生徒アンケートにおいて3学年を比べ、1・2学年の評価が低いことについての考察や対策が必要と思われる。 文部科学省が打ち出した「ギガスクール」について、一人一台のタブレット端末の配置とともに、それを生かした授業内容が示されている。今後その利用とともに教員の授業力が問われることになる。なお一層の努力に期待する。
<ul style="list-style-type: none"> 早朝の街頭啓発時に生徒が快くあいさつしてくれた。普段の取り組みの成果であると感じた。全職員が共通理解のもと、組織的に対応している結果と評価できる。 いじめへの対応であるが、普段から生徒の言動に注視し早期発見に努めて欲しい。 部活動を通じて顧問や生徒間の絆や交流が深まる。また、生徒の自主性・協調性・連帯感が醸成される場でもあるので、勉学と部活動の両立を目指して取り組んで欲しい。 コロナ禍で、町内外のイベントが中止となり、生徒と交流する機会が減少したが、例年通り、上高だよりや上高農場だよりで教職員と生徒が一体となった取り組みを定期的な情報発信されたことは評価できる。 保護者アンケートでは、いじめへの対応について、1学年の30%が評価2～1であることが気になる。 「人は環境と人で育つ」と言われる。生徒に対して、学校生活が充実したものになるよう細かなところまで考えられている。
<ul style="list-style-type: none"> インターンシップによる職場体験や体験入学は、業務内容の理解を深めるとともに生徒の就職活動や進路実現に大きく寄与すると思われる。今後も進路に合わせた取り組みをお願したい。 就農目的を持って入学した生徒は別として、3年間の学習を通して就農を決意することはなかなか難しい。本人の強い信念と将来の農業に明るい展望が見込めることが大事である。技能の習得は勿論のこと体験学習や現地見学により就農に対する理解を深め労苦をいわず頑張る生徒を育成していただければと考える。 農場施設・設備の充実等は学習意欲の向上に繋がることができる。また、上郡町との連携協定については新たな試みとして教育の発展と町の活性化に寄与することが期待できる。 検定・資格の取得は本人のモチベーションやスキルアップにつながる。引き続き、各種検定・資格の取得に努めて欲しい。 卒業生の進路では、医療系学科への進学が際立っている。「健康科学類型」の充実に関する取り組みの成果と考えられる。 旬菜蔵で販売されている農産物や鶏卵を購入し美味しくいただきたい。年末に知人からもらった上郡高校産のシクラメンもいまだにつぼみを次々にふくらませ、玄関を彩っている。作物の品質の良さを実感している。 学年毎の取り組みを明確にし、その実現に向けて更なる強化をお願いしたい。 社会全体の構造が著しく変化し、社会や地域に開かれた高大連携がより重要になっている。今後も教育的効果の高いインターンシップを推進し、引き続き専門人材の育成に努めて欲しい。 社会人基礎については、上郡町との連携協定を契機に一層の取り組みを期待したい。
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から防災講演会等の開催が制限されている。「ひようご安全の日、西播磨のつどい」が兵庫県インターネット放送局で配信されている。今後とも有事の際の行動規範を身につけ、自らが率先して行動できる人材を育成して欲しい。 教員と生徒が一体となった環境美化の取り組み、またクリーン作戦は、学校のイメージアップにつながる。校内美化の取り組みは、学習意欲の向上にも寄与する。 今後とも、学校通信やホームページ等によりタイムリーに情報を発信していただき、地域に愛され親しまれる学校づくりに努めていただきたい。 年間を通じた地域との交流はコロナ禍もあり、大部分が実現できなかったと思われる。そのような中で、清掃活動を通じた取り組みは大いに評価できる。 今年度は、各種イベントの他、町内小学校の放課後子ども教室も中止となった。上郡高校生のみならず、地域住民すべての交流の機会が奪われた1年余りであった。アフターコロナ時代の新しいコミュニケーションの形を町民と共に模索していきたい。 上郡町との連携協定により、今年度できなかった行事やイベントを通じて、郷土愛を育むことに次年度は期待したい。 業務改善については、継続した取り組みの中で一定の成果を上げていると思われる。 部活動や校務を含む業務量を削減するためには教員の意識改革が必要であり、職員一人一人が業務の適正化に努めることが喫緊の課題である。 教職員の健康が生徒へのよい教育を作る。次年度も継続して、よりよい職場環境の推進をお願いしたい。